

南アフリカ 業界団体はカンキツグリーンング病の「新たな脅威」を否定

[EUROFRUIT 2024年10月8日](#)

柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOはブルームバーグのレポートに対して声明を発表

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、同業界におけるカンキツグリーンング病の脅威を否定する声明を発表した。この声明は、ブルームバーグ社が先週末に発表したレポートに対する回答である。同レポートは、真菌による感染性病害の取り扱いをめぐってEU、特に柑橘類供給国としてのライバルであるスペインとの緊張が続く中、南アフリカの柑橘類輸出業者が「新たな病害の脅威」に直面していると示唆するものであった。

CGAのジャスティン・チャドウィックCEOは、この主張を「不正確で誤解を招く」と表現し、「輸出された柑橘類がこの病害を広める可能性があるといういかなる示唆も正しくない」とコメントした。柑橘類のグリーンング病は1932年から南アフリカに存在しており、影響を受けた地域から影響を受けていない地域への繁殖材料の移動を防ぐ厳格な措置を通じて管理されていると同協会は指摘した。また、チャドウィック氏が指摘したように、果実や種子によって感染が拡大することはないため、南アフリカ産の柑橘類に輸出制限はない。

黄龍病と呼ばれるこれとは別のより危険な病害が、アジア型のカンキツグリーンング病またはイエロードラゴンとして知られており、世界の他の地域では柑橘類の生産を著しく妨げているが、南アフリカには存在しない。チャドウィック氏は、「南アフリカの柑橘類産業の未来は明るい」と付け加えた。

執筆者: マイク・ノウルズ

(関連記事)南アフリカ 柑橘類の病害に対する監視プログラム

[FreshPlaza 2024年10月8日](#)

農業・土地改革・農村開発省(DALRRD)は、東ケープ州ゲベハ市(英語名ポートエリザベス市)近郊でアフリカ型のカンキツグリーンング病を監視するためのプログラムを開始した。このプログラムは、同市の住宅地で最近この病害が検出されたのを受けて、この地域に同病害が存在するかしないかを確定することを目的としている。この病害は、細菌によって引き起こされ、柑橘類に付くアフリカ型のキジラミによって広がり、葉面の斑模様や葉脈の黄変などの症状を引き起こし、果実の品質に悪影響を及ぼす。

監視プログラムの取り組みの一環として、病害の分布をマッピングするための区画調査が実施され、植物検疫措置の実施に必要な情報が提供される。同省は、柑橘類研究インターナショナル(CRI)と協力して、柑橘類の果樹に病害の兆候が出ていないか調査し、検体を収集して実験室で分析することもある。同省は、この地域の苗木業者、柑橘類生産者及び住民に対し、監視活動への協力を求めるとともに、同省が設置した黄色い粘着トラップに手を出さないよう警告するための通知を行った。

農業病害虫法の下では、病害の蔓延を防ぐため、柑橘類の繁殖材料を東ケープ州内の感染地域から非感染地域へ移動することが制限されている。同省は、感染していない地域を保護するために、これらの規制を守るよう呼び掛けている。

ジョン・スーテンハイゼン農業大臣はまた、ヒューマンサイエンス調査協議会が実施した全国食品栄養安全保障調査(NFNSS)の結果を公表する予定である。この調査は、世帯レベルでの食料安全保障の達成を支援するため、同国の食料と栄養の安全保障に関する考察を提供することを目的としている。

柑橘類業界に対する新たな病害の脅威を示唆するメディアの報道に対して、南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィックCEOは、アフリカ型のカンキツグリーンング病は1932年に検出されて以来制御されてきたことを明らかにしている。チャドウィック氏は、この病害は繁殖材料の移動を制限する措置を通じて管理され、果実や種子を介して病害が広がることはないため、柑橘類の輸出に影響を与えないことを強調している。

出典: [SA News](#)及び[IOL](#)